

提言第 1 号 中心静脈穿刺合併症に係る死亡の分析

事例10

< 事例概要 >

- ・ 進行癌、イレウスの患者。閉塞性動脈硬化症に対し抗血小板薬を服用中。
- ・ 死因は、癌血行性転移による出血性脳梗塞（推定）。死亡時画像診断（Ai） 無、解剖無。
- ・ 中心静脈栄養目的でリアルタイム超音波ガイド下に右内頸静脈へ中心静脈カテーテルを挿入した。胸部X 線で確認後、輸液ポンプで点滴を開始した。挿入約9 時間後に息苦しさを訴え、その後咳嗽・胸痛が出現し気胸と診断され、胸腔ドレーンを挿入した。挿入 2 日後の点滴交換時に拍動性の血液の逆流を認め、胸部単純CT で、カテーテルが内頸静脈から鎖骨下動脈を穿通し、大動脈内に留置されていることが判明した。血小板輸血及び心臓血管外科医師の待機のもとにカテーテルを抜去し、止血した。その約1 か月後、原病に関連した合併症により死亡した。